

事例から学ぶ

# 相談員のためのトラブル対策

NEWS

## 一度目の転倒は不可抗力でも2度目の転倒は？

### ■ 転倒骨折事故がなぜ大きなトラブルに発展したのか？

Kさん(83才)は要介護3の男性利用者で、毎日デイサービスを利用しています。重い認知症がありますが、身体の障がいは軽度で生活動作はほぼ自立しています。半年前から利用を開始しましたが、2ヶ月後にデイルームで転倒する事故が起きました。

デイルーム座席近くで転倒したため、他の利用者に状況を聞くと「自分の椅子から立ち上がり、歩き出そうとして転倒した」とのことでした。転倒後、幸いケガはありませんでした。その後、次女に事故状況を説明すると、理解を示してくれました。

Kさんはその後、次女が購入したシルバーカーを使うようになりましたが、歩行時に何の前触れもなく突然転倒する事故が頻繁に起きるようになりました。ケアマネジャーから連絡があり、「Kさんは家では転倒しないのにデイで転倒している。家族が“絶対に転倒させないで欲しい”と言っているのに注意して欲しい」と話がありました。ところが、Kさんは翌月にシルバーカーで歩行中に転倒して、大腿骨を骨折してしまいました。次女は「絶対に“転倒させないで欲しい”と言ったのに」と、大変な剣幕で連絡が入りました。

## 急に転倒が増えたら家族と転倒事故防止対策のカンファレンスを開こう

### ■ 不可抗力の事故だと家族が納得しても

転倒事故が起きた時に家族が不可抗力に理解を示すと、施設側は「家族はリスクを受け入れてくれた」と安心してしまいます。しかし、最初の転倒ではケガもなく家族が理解を示してくれたとしても、今後起こる事故に対しても理解を示してくれる保証はありません。

最初は理解を示した家族でも、その後同様の事故が度重なり、大きな事故につながれば、反対に「何度も転倒が起きて事故の危険が分かっているのに何もしてくれなかった」と、より大きな反感につながってしまうことがあります。

ヒヤリハットや軽い事故などで家族が理解を示しても、その後の事故防止に対応については、家族に説明しながらきめ細かく対応していかなければなりません。急に転倒が増えることには何らかの原因があります。その原因と防止対策について家族とカンファレンスを開くことが必要です。



### ■ 認知症が重い利用者の福祉用具としてシルバーカーは適切か？

さて、このKさんの事例で気になるのは、家族が購入したシルバーカーをデイサービス側が受け入れていることです。シルバーカーは歩行器とは異なり、歩行が安定するとは限りません。歩行補助具としてはその機能に疑問があるのです。

また、認知症を発症する以前からシルバーカーを使い慣れていれば問題ありませんが、認知症の方に使ったことのないシルバーカーを使わせることは、反対に転倒の危険が高くなる可能性は十分にあります。

家族は介護の専門家ではないため、正しい福祉用具を選択ができるとは限りません。デイサービスは、介護の専門家としてシルバーカー使用の安全性についてきちんと検討すべきだったのです。「デイサービスは広い場所が多いので転倒の危険が高くなります。防止対策についてはご家族のお考えもお聞かせ下さい」と、家族と一緒に防止対策を検討すれば、事故発生時のトラブルも避けられます。

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社  
 マーケット開発部 市場開発室  
 担当 堀江・窪田 TEL 03-5789-6456  
 監修：株式会社安全な介護 代表 山田 滋

担当課支社・代理店